

新興国レポート

# インド10年金利が6%を超える水準に上昇

## 物価動向等を受けた利下げ期待の後退が主な要因に

- ▶ 8月24日のインド10年国債金利が約3ヵ月半ぶりの水準に上昇。物価の高止まり等によるRBI（インド準備銀行）の利下げ期待後退が主な要因と思われる。
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞懸念、野菜価格の落ち着きによる物価のピークアウト観測等を材料に、インド10年国債金利が再び低下基調に戻ることも想定される。

### (1) インド10年金利が約3ヵ月半ぶりの水準に上昇

- 8月24日のインド10年国債金利は前日比0.08%上昇の6.17%と、約3ヵ月半ぶりとなる水準に上昇しました。同金利は8月6日の5.77%を直近ボトムに上昇傾向をたどっていましたが、足元はそのペースが速まっています（図表1）。

### (2) 金利上昇の要因

- 金利上昇の要因としては、物価の高止まりや一部経済指標の改善で、追加利下げ期待が後退したこと、また足元の急上昇については、10年国債金利が6%を超え、投資家が先行き不安から持ち高整理を急いだこと等が考えられます。
- インドの物価が高止まりしています。8月13日に発表された7月のCPI（消費者物価指数）は前年同月比+6.9%と、RBIの物価目標の上限（6.0%）を4ヵ月連続で上回りました（図表2）。RBIは8月6日の金融政策決定会合で、インフレ懸念の強まりなどを理由に、政策金利を年4.0%で据え置くことを決めました。7月CPIの発表を受け、次回10月1日の会合での利下げ期待が後退したことが金利上昇の主な要因になっているものと思われます。5月に前年同月比で85%の落ち込みを記録した国内乗用車販売が、7月には同4%減までマイナス幅が縮小する等、ロックダウン（都市封鎖）解除を受けて一部の経済指標が改善していることも利下げ期待後退の要因になっているものと見られます。

### (3) 今後の見通し

- インドの新型コロナウイルス感染者数は8月23日時点で310万人超と、7月末から約140万人増加しています。最近では1日当りの新規感染者増加数（7日間平均）が6万人を超えて推移しており（図表3）、経済活動が再び停滞することも考えられます。昨年夏場の洪水被害で急騰した野菜価格が、生産の回復で落ち着きつつあり、物価上昇は峠を越えたとの見方が今後増える可能性もあります。経済活動の停滞や物価の落ち着き等を背景に、RBIの利下げ期待が強まれば、インド10年国債金利が再び低下基調に戻ることも想定されます。

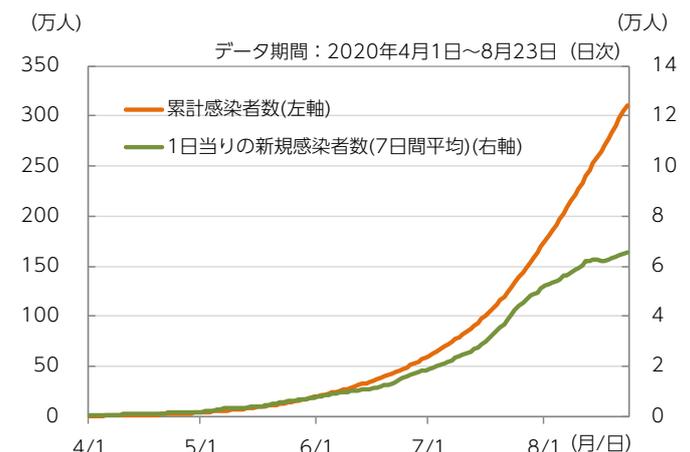
図表1：インド10年国債金利



図表2：インドCPI



図表3：インドの新型コロナウイルス感染者数



出所) 図表1~3はCEIC、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>